

1



2



3



4



5

主催者(雪国青年会議所)からの御礼

多大なるご協力、ありがとうございました！

予想を上回る頑張りと来場者となり、大成功のうちに雪まつりを終えることができました。

高校生の皆さんからアイデアとパワーを頂き、私たち実行委員メンバーはじめ、関わった大勢の大人達に逆に火を付けてくれました。

衰退しつつあった「雪まつり」に子どもからお年寄りまで楽しめる昔ながらのココロ暖まる手作りのお祭りを見事復活してくれました。

6



新潟・津南中等教育学校は「実践・検証」まで計画

7

人材の育成と回帰にむけた動き

【現状】

- ・ 地方では「高校と地域の連携」は着実に進展

【可能性】

- ・ 地元回帰 + 都市部から地方への人口逆流

【課題】

- ・ 教育課程上「地域人材育成」は不明確。
(せめて「0.5単位」分でも明文化されれば・・・)
- ・ 「小中学校」と「高校」の間に深い溝
(市町村と都道府県の壁を超えられない)

8

教育課程の問題

◎ 「35時間で1単位」

- ・ 「なぜ自然数なの？・・・小数はダメ？」

※ ふるさと教育に限らず、
教育課程を「0.5単位」で編成できれば、
全国の学校はすごく楽になる。

物理	3単位	2.5単位	2単位
化学	2単位	2.5単位	3単位

9

教育課程・中高接続の問題

- 「35時間で1単位」問題
 - ・ 「なぜ自然数なの？・・・小数はダメ？」
 - ・ 内閣府で打合せをした折にも話題に
- 「市町村」と「県立学校」の連携問題
 - ・ 「制度改正で解消できるの？」

↓

突破口が見つかる

10



宮崎県立飯野高等学校 (えびの市)

11



小中高 交流授業 (飯野小・飯野中・飯野高)

12

地方分権改革ワークショップ「若年層の定住促進」(長崎県)
議事次第

平成31年2月15日(金)
13時30分～16時00分
於：長崎県庁行政棟3階311会議室

～ 記 ～

(1) 開会
(2) 講師紹介・ワークショップの進め方
(3) 講義
①内閣府地方分権改革推進室 参事官 萩原英樹氏
②大正大学地域構想研究所 教授 浦崎太郎氏
(4) グループワーク
テーマ：長崎県の若者の定住促進をするため、制度面の支障を提案募集方式で解決できないか
(5) 閉会

H31.2.15.

長崎県庁 地方分権改革ワークショップ

19



20

長崎県庁ワークショップ(検討内容の概要)

- 高校生の就職における1人1社制を見直せないか？ ・採用力の弱い地場企業のために
- 賃貸に関する仲介手数料に係る規則を緩和できないか？
・業者は辺境地の安価な物件を紹介困難
- 住宅から民泊に用途変更する場合における浄化槽に係る基準を緩和できないか？

・多様なアイデアの中には「提案募集方式」が有効そうな事例も

21

長崎県庁ワークショップ(アンケート結果)

【認知度】

この研修を受講する前、「提案募集方式」による地方分権改革の取組をご存知でしたか。

認知度	割合
① 知らなかった	62%
② 聞いたことがあったが、内容は知らなかった	24%
③ 知っていた	10%
④ 知っており、活用を検討したことがある	4%

22

長崎県庁ワークショップ(アンケート結果)

【おすすめ度】

来年度、同様の研修を実施するとしたら、受講することを職場の同僚に薦めたい

おすすめ度	割合
よくあてはまる	41%
あてはまる	55%
全くあてはまらない	4%

23

長崎県庁ワークショップ(感想抜粋)

- 分野外の方との話し合いは、それぞれが知らないことを寄せて解決策を考える良い機会となりました。
- 提案募集方式は、これまでの固定観念をくつがえすことができました。
- 法令等で決まっていることを変えられるとは考えていなかったです。
- 提案する自治体とそうでない自治体で、自治体の将来が変わってくると思いました。

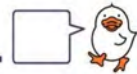
24

地方分権改革推進シンポジウム

討議②

今後の 提案募集方式の 活用に向けて

大正大学 地域構想研究所
教授 浦崎 太郎



1

地域再生と人づくりを一体的に進める動き

高校が「人づくり」、地域が「地域再生」で、
個々の課題に個別に対処しても限界があった



多様なステークホルダーが対話する場を創設
(SCH シンポジウム: 2015~ @東北芸工大)

Super Community
High school



一定の条件が整った高校・地域
全国各地に優良事例が続出し、希望が充満

半面 ↓ 「~できる」は「~しなくてもよい」

「対話」の限界を「制度改革」で超える必要性

2

人口減少の克服にむけた長崎県庁の動き

知事の肝いりもあって、各部課で個々には最大限の努力を続けてきたが、限界もあった。

↓ 内閣府と浦崎から働きかけ

関係部課の職員が対話する会を開催 (2/15)
「若年層の定住促進方策を考えるワークショップ」



高評価・・・「制度改正」にも「対話」が重要
“知らないことを寄せて考える良い機会”
“こういう機会がないと考えることはない”

3

「若者の地元回帰」から見える将来像

【現場】対話には限界 → 制度改正も必要

【行政】縦割り組織の限界 → 対話も必要

【高校】多様な人々と協働して学ぶ態度を重視
(高校生の参画で化ける地域も多数)



「行政」「現場」「当事者」が顔を揃えて対話し
「制度」と「個別の仕組み」をセットで変える
結果的に「提案募集方式」の活用度が向上

4